

元気が見えるバーチャンネットワークをつくろう

みんなで暮らすまちづくり！みんなそばにいる！in 能登町

【趣旨】

少子高齢化が進んできている時代。能登町も高齢化・過疎債が進んでいるにも関わらず、ボランティア活動、町会活動が活発に行われている。能登町で活躍する実践者の「声」、地域包括センターの「施策」、社会福祉協議会の「地域実践事業」について事例発表を通じて、元気にこの町で暮らしていくための「見える」実践行動は、何かを考える。

【ゲスト】

川端 登喜夫

能登町会区長連合会長 社会福祉協議会理事

合併し大きな町会区長連合会の長として会を束ね指導。現在の多様化する福祉課題の積極的に協力支援を行っている。

高木 米子

能登町ボランティア連絡会 会長

社会福祉協議会に組織されている能登町ボランティア連絡会の会長として5年。多様な活動を町で実践している。

上野 英明

能登町健康福祉課包括支援センター 社会福祉士

包括支援センター社会福祉士として、能登町高齢者の介護相談にあたる。

【コーディネーター】

北野 啓子 石川県社会福祉協議会 地域福祉課専門員

県社協で、地域福祉全般を担当、市町社協の連絡調整及び支援にあたる。石川県福祉担当課並びに北陸県社協の他、全国ネットの連携ができる。

協力団体●社会福祉法人 能登町社会福祉協議会

会場●能登町立柳田小学校 ランチルーム

参加者●27名

1. 分科会要約

活動報告 区長から

合併により3町が共有する伝統・歴史・観光資源を共有する為定期的ミーティングで連体感を作った。地域コミュニティ（横の繋がりで孤独死防止など）形成や防災（地震、9mの津波想定で訓練）などに力を入れる。

活動報告 ボランティアグループから

平成18年成立、77団体1602人登録。子育て支援、サロン活動、地域の年寄りの食事等自主活動、支えあう町づくり、ネットワークづくりなど地域活性化のため幅広い分野に取り組む。

活動報告 市役所福祉課から

高齢者の現状と課題について、高齢者増加、若年層減少（籍はあるが金沢で生活してる人も）の進行が激しい。高齢者の一人暮らし、二人暮らし、要介護・介護保険増→見守りが増えれば減らせるのではないかな。

活動報告 社会福祉協議会から

社会福祉協議会の役割（自主的・団体、国・地域を支援）として、高齢者の集まり・食事・運動・安否確認、ボランティアの育成、連携（区長、民生委員、地域団体など）を通じて、地域づくりの大切さ（支え合い活動必要な今後の取り組み）を伝えていくことが大切なことではないかな。

2. 開催で得たもの（新しい発見）

個人情報保護法の弊害で地域が混迷している事もある。助け合いには不必要と考える人もいる。

2. 開催で得たもの（新しい発見）

お金やビジネスの話をしてこなかった。マニアの中ののとキリシマツツジ、ではダメなのだ。



3. 分科会まとめ

- ・“町の資源” →若者は減っても、元気な高齢者がいる
- ・まずは地域（隣の人）でつながる
- ・共助でフォーマルサービスの隙間を埋める
- ・地域の問題を知る
- ・自分は何が出来るのか？
について考えること



4. 今後に向けた展開

人と人が繋がり、共助のネットワークを構築し、人づくりの支援が必要。

5. 参加者の声

独身者が多い、仲人や結婚相談はしてないのか？

→以前はしていたが、現在はしてないと思う（高木さん）

地域の支え合いの必要性があるが社会協議会の認識はどうか？

→今後活動したい（川端さん）

地域でどんな事が必要か、具体的な取り組みは？

→7年前から、ひまわりネットという、地域高齢者を見守る活動をしている（上野さん）

6. その他

ここに出てくる課題は、どこの地域でもある問題であり、地域全体で考える必要がある。